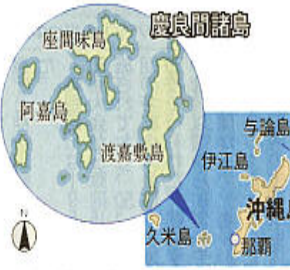


# 海の宝石箱 守れ

世界の海で最大のピンチにあるサンゴ礁。世界何処の規模を誇る沖縄・慶良間諸島でも、異常発生したオニヒトデの被害が広がっているが、海の生き物をはじめくもくも危機を守る試みも動き出している。

## 慶良間のサンゴ礁

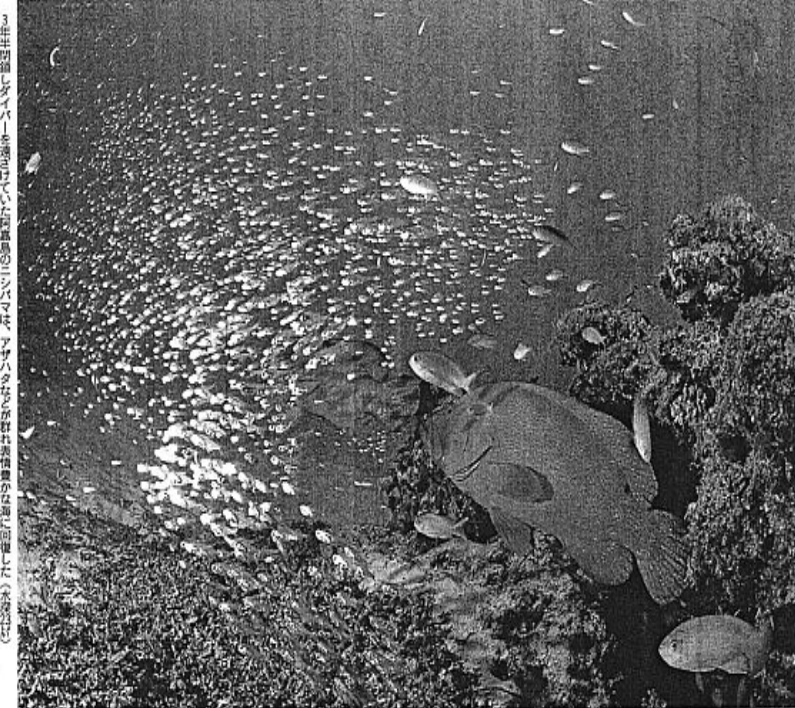


海研究所の調査によると、オニヒトデの被害は、伊江島(31)は、海中で卵を採取して捕獲を生産、再び海にかえす研究に取り組んでいる。「サンゴ礁の減少に歯止めをかけ、慶良間だけでなく全世界でサンゴの保護育成に貢献できる成果を上げたい」との意気込みが、サンゴが覆われている危機的状況です。

人気ダイビングスポットの一つ阿波島の「ニシハマ」は、三年半ぶりに海水が解禁された。ダイバーが足ひたで巻き上げる砂や船のいかりで損傷したサンゴ礁は、すっかり回復。再開に当たっては、投網禁止や海域に入る船の隻数制限措置を



再開されたニシハマには、泳場保全海域の旗が設置され、ダイビングボートはいかりを入れることができなくなった。

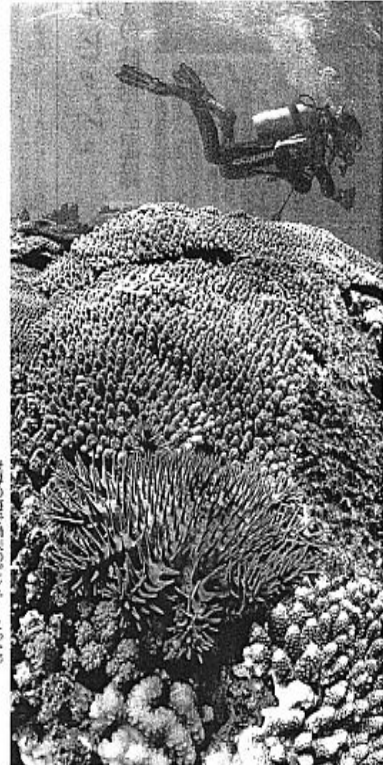


3年半閉鎖されたニシハマを再開して阿波島の「ニシハマ」は、アサギを主体とした魚群が観察された。(阿波島)

## アングル



サンゴの幼生を付着させクレーンを観察する阿波島。サンゴの種目も増え、魚も増えている。(阿波島)



オニヒトデ(赤い)には日本前線の被害があり、成長すると約10年ほどは回復しない。後方に泳ぐサンゴの下やまに、異常発生したオニヒトデの被害が広がっている。(阿波島)

# 海の宝石箱 守れ

## 慶良間のサンゴ礁



海研究所の調査によると、オニヒトデの被害は、伊江島(31)は、海中で卵を採取して捕獲を生産、再び海にかえす研究に取り組んでいる。「サンゴ礁の減少に歯止めをかけ、慶良間だけでなく全世界でサンゴの保護育成に貢献できる成果を上げたい」との意気込みが、サンゴが覆われている危機的状況です。



再開されたニシハマには、泳場保全海域の旗が設置され、ダイビングボートはいかりを入れることができなくなった。